



センターWebページへ

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

ハイライト:

「平成21年度センター研修」を特集します。

当センターでは、児童生徒一人一人が夢に向かって主体的に取り組むよう学習活動を充実させるべく、効果的な研修の実現に向けての取組を進めて参ります。

目次:

平成21年度 教職員研修講座の概要(1)	2
平成21年度 教職員研修講座の概要(2)	3
講座紹介・受講者の声	4
研究発表会レポート お役立ち情報	5

青森県総合学校教育センター

センターだより

巻頭言

「教育相談の現状と研修のすすめ」

私がカウンセリングを学び始めた20数年前は、ロジャーズ派の来談者中心療法が主流で、カウンセラーとクライアントは基本的に横の関係、物事を価値的に見ることは無く、受容・共感を中心にかかわるというものでした。しかし、教師と児童生徒という基本的に縦の関係の中、指導を中心にかかわり価値観を教えていくという教育場面には、そのままではなじまない感がありました。

一方、学校における生徒指導は、問題行動への対応という消極的生徒指導が中心であり、教育相談は甘やかしだという認識を多くの先生方が持っておられました。

しかし、当時の文部省は、1981年の「生徒指導の手引(改訂版)」の中で、「生徒指導の意義は、このような青少年非行等の対策といった言わば消極的な面にだけあるのではなく、積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のより良き発達を目指す」とすでに述べており、1990年の「生徒指導資料第21集」では、「教育相談は、生徒指導の一環として位置づけられるものであり、しかもその中心的な役割を担うものである」と述べていることを記憶している方も多いと思います。

その当時に比べれば、現在は生徒指導も積極的生徒指導に変わりつつあり、教育相談に対する認識も随分改善されてきたような気がします。また、不十分ではありますが、スクールカウンセラーの配置やスクールソーシャルワーカー活用事業も始まり、教育相談の環境も少しずつ整ってきています。にもかかわらず、いじめや不登校は減少せず、学級崩壊や保護者からのクレームへの日々の対応も大きな課題となる中で、教師自身の教育相談に係る力量は必ずしも十分高まっているとは言えないのが現状です。学校週5日制に伴う教師の多忙化にも一因があるのでしょうし、研修に参加される先生方も減っていますが、教育相談の力量がこれまで以上に問われることには変わりはありません。むしろ、児童生徒や保護者との面接相談の力量ばかりでなく、学級づくりにおけるスキルとしてのQ-Uやエンカウンターなど、新しい知識や技能がますます必要になってきています。

当総合学校教育センター教育相談課では、「不登校対策講座」「いじめを生まない学級づくり講座」等各種研修講座を年間を通じて開設する一方、校内研修やPTA講演会等にも積極的に専門の指導主事を派遣し、学校支援に努めています。多忙な日々ではありますが、是非とも活用していただき、先生方一人一人の教師力を高める一助になればと願っております。



教育相談課長
佐藤 昭雄

平成21年度教職員研修講座の概要(1)

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

【基本方針】

- 1 基礎・基本を大切にする。
- 2 社会の変化に対応する。
- 3 体験的な活動を積極的に取り入れる。
- 4 学校の教育課題の解決を支援する。
- 5 特色ある教育、特色ある学校づくりを支援する。

平成21年度講座数
207講座

※詳細は、各校に配布される一覧表及びWebページ(3/23アップ予定)をどうぞご覧ください。

【重点】

- ① 学習指導要領の趣旨・内容を重視するとともに、学習指導要領改訂の基本的な考え方を取り入れる。
- ② 「教育の情報化」に対応した内容を積極的に取り入れる。
- ③ 学校が直面している教育課題に適切に応える。
- ④ 「指導と評価の一体化」についての内容を積極的に取り入れる。
- ⑤ 「個に応じた指導」「特別の支援を必要とする子どもの教育」についての内容を積極的に取り入れる。
- ⑥ 小・中・高等学校の12年間を視野に入れた「継ぎ目のない教育」を推進する。

特色ある講座

◆243 数学的活動の楽しさを実感する中学校数学科教材活用講座

新中学校学習指導要領においては、数学科の目標が、数学的活動の楽しさを「実感し」という表現に変更されるとともに、数学の各学年の内容に「数学的活動」が位置付けられました。これらを踏まえて、本講座では、数学的活動の楽しさを実感させ問題解決の能力を伸ばすことをねらいとし、数学的活動を取り入れた教材の活用、コンピュータ及び情報手段の活用、小学校算数との接続に関する研修を行います。

◆263 小学校理科実験基礎講座

小学校理科では、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図るために、観察・実験の重要性が増しています。新学習指導要領の移行措置に対応した観察・実験やものづくりを通して、教室ですぐに活用できる4分野の実験操作の基礎・基本の習得を目指します。内容は、ガスバーナーを利用した水溶液の加熱実験や顕微鏡を使った観察などを行う予定です。弘前大学教育学部から講師を迎え、当センター指導主事とのチームティーチングで実験を行いますので、理科が苦手な先生方でも基礎・基本をじっくり学ぶことができます。

◆503 総合的な学習の時間研修講座

小学校と中学校、中学校と高等学校等との継ぎ目のない接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるような目標設定をし、従来の小・中学校「総合的な学習の時間」研修講座と高等学校「総合的な学習の時間」研修講座を統合することにしました。今年度は、今回の学習指導要領改訂に携わった文部科学省初等中等教育局教科調査官の田村学氏を講師に迎え、これからの特色ある学校づくりを目指す総合的な学習の時間を考えていきます。

◆504 キャリア教育研修講座

今、「教育は人づくり」という原点に立ち、小・中・高等学校の12年間を視野に入れた「継ぎ目のない教育」を推進することが求められています。中でも児童生徒の多様なニーズに応えられるよう、計画的にキャリア教育を推進することが必要です。そこで今年度から新たにキャリア教育研修講座を開催することとしました。講師には学習指導要領改訂に携わり、またキャリア教育に関する著作も多い、元文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官であり、現千葉商科大学教授の鹿嶋研之助氏を講師に迎え、小学校から高等学校までの組織的・系統的なキャリア教育を推進するための研修を行います。

◆602 いじめを生まない学級づくり研修講座

今年度は、講座名を「いじめを生まない学級づくり」とし、内容を大幅に変更しました。いじめの諸問題についての理解を深め、いじめの早期発見と初期対応、加害者・被害者・傍観者の児童生徒への指導方法や、保護者への対応について研修するとともに、対人関係づくりや学級集団づくりに必要な理論や方法(構成的グループ・エンカウンター)を学び、いじめを生まない集団を育てる力を向上させていくことをねらいとしています。また、児童生徒の携帯電話の利用の増加に伴い、「ネット上のいじめ」の問題も深刻化しています。このような現状を踏まえ、非行を対象としたカウンセリングやソーシャルスキルトレーニングの実践、青少年のインターネット利用への影響などを研究されている文教大学の石橋昭良氏を講師に迎え、「ネットいじめの理解と対応」についての講義と演習を予定しています。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

平成21年度研修講座案内
Web公開日
平成21年3月23日



県総合学校教育センター
トップページ

授業情報の例として

指導案、教材、スライド、写真、動画、プリント、ワークシート、リンク情報、プレゼンテーション教材、小テスト、ドリル問題（漢字・数学・英語等）、考査問題、観察データ、観測データ、県外視察の記録、インターンシップの資料、修学旅行の写真資料（各種建造物等）、その他、県内各校・教職員間において参考になりそうなものを登録してください。

平成21年度教職員研修講座の概要（2）

◆705 発達障害児研修講座

特別支援教育への意識・関心が高まる中、全ての学校において、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への支援が強く求められています。そこで、今年度は、学習障害、アセスメント、学習指導、個別の指導計画を専門分野とされ、通常の学級に在籍する児童生徒への支援をテーマに研究している国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センター主任研究員の海津亜希子氏を講師に迎え、具体的なアセスメントの方法から個別の指導計画の作成、適切な支援方法や評価等についての講義を予定しています。海津氏がかかわったLDI-R（LD判断のための調査票）、RIM（教授法に対する児童生徒側からの評価）等を主な内容としています。

◆813 プレゼンテーション活用講座

学習指導におけるICT活用指導力の向上を図るために、ICTの活用事例を体験しながら、指導力を身に付けていく研修です。

特に本講座では、授業の中でプレゼンテーションソフトを効果的に活用する方法を研修します。教材スライドを作成していくための手法を研修するだけでなく、普通教室での黒板への投影の仕方、プロジェクターやデジタルカメラなどの操作演習をします。

◆902 教育相談長期講座

今年度から9日間（うち5日間は長期休業中）のセンター一括研修となり、希望による受講もできるようになりました。内容は面接相談の技法である「傾聴の5技法」と「解決志向型の相談」を教育相談で活用できるよう演習を通じて学んだり、また、集団を育てるアプローチとして「構成的グループ・エンカウンター」を演習を通して学んだりします。知っていることと使えることは違います。すぐ学校で活用できるようになることが講座のねらいです。

聴講可能な講座

聴講可能な講座は、44講座です。どの講座もスペシャリストの講師陣を迎えております。自己の資質向上のため、ぜひ聴講してはいかがでしょうか。

また、教職員以外の方が聴講可能な講座は、19講座です。
※詳細は、Webページ（3/23アップ予定）でどうぞ。

「授業情報システム」の活用を

当センターホームページより提供している「授業情報システム」をご存じですか？「授業情報システム」からは、学習指導案、教材教具、音声教材、プレゼンテーション素材、配付プリント等の授業で活用できる情報を、電子ファイルで提供しています。様々な授業情報を検索し、ニーズにあった教材がダウンロードできます。

システムの利用には、県内公立学校教職員に配布済みの、利用者ID・パスワードが必要です。（県立学校へは毎年4月末頃配布しています。小学校・中学校へは今年度3月末に再配布します。）

また、このシステムが提供する教材は、県内公立学校教職員、当センター職員によって登録されたものです。ぜひ、積極的な登録をお願いします。仮に先生方が一人1件登録すると、約13,000件のコンテンツが増えることになります！

まずは一度ご覧ください。（→<http://jj.edu-c.pref.aomori.jp/>）



夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

「講座番号903 特別支援教育長期講座」

この講座は、小・中学校、特別支援学校の先生方を対象として、年間20日間当センターに通って各自の課題に沿って研究を進めることになっています。内容としては、「研究主題と内容の検討」、「実態の整理」、「指導内容・方法の検討」、「指導経過の確認と検討」、「研究報告の作成」等の順に進められ、1年間にわたる研究の成果は、毎年1月上旬に行われる「センター研究発表会」で発表し、長期講座報告としてまとめることになっています。

日々の仕事に追われて、なかなか研究に取り組めないでいる先生方にとっては、それぞれのニーズに合わせて研究に指導主事と一緒に取り組むことのできる絶好の機会です。なお、この講座は指定の2教育事務所から推薦された小・中学校教員と特別支援学校の教員が対象となっています。今後も多くの先生方が、進んで受講希望されることを願っています。

◆受講者の声

本校は社会的、職業的自立を目指し設立された高等部のみの知的障害特別支援学校です。授業間での着替えや教室移動が多く、教科によって所属する集団が異なるという特徴があります。そのような状況の中で、複数の集団を経験したことがないため、適応行動がとれない生徒も少なくありません。

私の担当する学級にも集団行動時に適応行動がとれない生徒Aがいました。その都度、指導を行うのですが、教科毎に授業担当者が変わるため、指導の一貫性を保つことが難しく、むしろ、指導に対して慣れが生じ、指導を受け入れなくなる様子がみられました。また、周りの生徒も集団行動に遅れるAに対して否定的な感情を抱き、このままでは、Aの自尊心が損なわれるとともに、仲間から孤立し、一層集団行動時の遅れが目立つようになるのではないかと不安と行き詰まりを感じていました。

そこで、長期研修講座を受講し、集団随伴性操作を用いた指導法を身に付け、新たな角度からアプローチをすることにしました。研究データとしては、短い期間となってしまいましたが、成果として集団行動時に生徒の適応行動が増えたため問題行動が軽減し、それまで、ぎくしゃくしていた学級での人間関係も円滑にいくようになりました。とても、良かったと感じています。

これからは、研究の成果を自分のものだけにとどめずに、この問題を本校の抱える課題としてとらえ、今後も努力を続け、取り組んでいきたいと考えています。

「講座番号094 小・中学校10年経験者研修 実践力アップ講座」

この講座は、教職経験10年の節目を迎えた先生方が、自らの課題意識やニーズに基づいた各教科・領域等における指導の改善に関する研修を行うことで、得意分野を伸ばし、中堅教員としての教育実践力の向上を図ることを目的としています。以下の3つの内容を中心に講座が進められました。

- ①全国We b カウンセリング協議会理事長の安川雅史先生の講演
「今、子どもたちが危ない ～携帯に取り憑かれた子どもたち～」
- ②センター研究発表会への参加
- ③当センター副参事・義務教育課長の講義
「教育実践と評価ー自己の課題意識に基づいて、特色ある教育実践を進めるためにー」

◆受講者の声

・携帯電話と子どもたちにかかわる問題と対処法を知ることができました。「教師として知らなかったでは済まされないのです。」という安川先生の言葉が心に残りました。子どもたちを守るために、現状を把握できるように情報を収集していきたいと思いました。

・研究発表会に参加して、今までとは違うもの見方や考え方のヒントを数多く得ることができました。これからは、学校という組織全体について考え、その中で自分がどのように貢献できるのかを模索していきたいと感じさせられました。

・自分の心構えとして、「得意技を身に付けること」「指導的立場の在り方を追求すること」「喫緊の課題に対応できる能力を身に付けること」を常に忘れずに、研修で学んだことを生かしていきたいと思いました。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

- トップ
- 研修講座の概要(1)
- 研修講座の概要(2)
- 講座紹介・受講者の声
- 研究発表会レポート



10年経験者研修（所長あいさつ）



10年経験者研修（全体会）

平成21年1月8日(木)・9日(金)、当センターを会場に「平成20年度青森県総合学校教育センター研究発表会」が開催されました。この発表会は当センターにおける研究成果を教育関係者はもとより広く一般の方も対象として発表し、本県の教育の向上に役立てるという趣旨で毎年行われているものです。

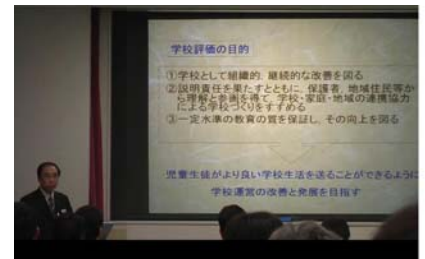
天候にも恵まれ、今年度は一般参加者が145名と昨年を若干上回るとともに、10年経験者192名、長期講座受講者24名と合わせると2日間で県内各地から、延べ820名の参加者があり、センター研究発表会に対する関心の高さがうかがわれました。また、36の研究発表(2研究協議含む)は、どの発表も今日的な教育課題を研究テーマとしているため、充実した研究発表及び質疑応答となりました。

1日目は全国Webカウンセリング協議会理事長 安川雅史氏の「今、子どもたちが危ない～携帯に取り憑かれた子どもたち～」と題した講演から始まりました。子どもたちを取り巻くネット環境の問題(学校裏サイト、プロフィールサイト、ブログ、チェーンメール、なりすましメール等)の現状と解決策を豊富な事例を基にお話ししてください、参加者からは「ネット環境に関する子どもたちを取り巻く非常に怖い現状がわかった。」「今日教えていただいた予防・解決策をぜひ保護者や子どもたちに伝えたい。」という感想がよせられ、「安川先生のお話をもっと聞きたい。」という意見が数多くありました。

午後から2日目にかけては指導主事、研究員、長期講座受講者、計36名による発表(2研究協議含む)がありました。発表者は教科教育、特別支援教育、情報教育、教育相談の4つの分野に分かれて研究の成果を発表しました。どの発表も今日的な教育課題をテーマにしているため、充実した内容となり、参加者は真剣に聞き入っていました。新学期前のお忙しい時期、おいでいただいた参加者の皆様、本当にありがとうございます。当センターでは来年度も平成22年1月7日(木)～8日(金)に研究発表会を予定しています。多数の参加をお待ちしています。



センター研究発表会(講演)
安川雅史氏



センター研究発表会
(部会別研究発表会-教科教育-)

お役立ち情報

今年度第3次購入分の新着図書の一部をご紹介します。小・中学校の新学習指導要領関連の書籍から話題の図書まで、このほかにもたくさんの教育関係図書や雑誌等をそろえて、先生方のご利用をお待ちしております。またライブラリでは教育資料の収集も行っております。今年度各校や個人でまとめた研究紀要・研究報告書等ございましたら、ぜひご寄贈くださいますようお願いいたします。

書名	編著者	発行・出版社
教育改革の国際比較	大桃敏行 上杉孝實 ほか	ミネルヴァ書房
新学習指導要領対応「活用力」を育てる授業の考え方と実践	安彦忠彦	図書文化社
新訂 国語科・理論と実践の接点 -新学習指導要領をふまえて-	大越和孝	東洋館出版社
算数科の思考力・表現力・活用力《新しい学習指導要領の実現》	小島 宏	文溪堂
わかる・できる授業のための 教室のICT環境	堀田龍也 野中陽一	三省堂
「気になる子ども」の教育相談ケース・ファイル	新井英靖	ミネルヴァ書房
発達障害と少年非行	藤川洋子	金剛出版
消えた反物質 素粒子物理が解く宇宙進化の謎	小林 誠	講談社
クォーク 第2版 素粒子物理はどこまで進んできたか	南部陽一郎	講談社
名作マンガの間取り	影山明仁	ソフトバンククリエイティブ

編集後記

最近になって、かつて写真界の「ミレー」と呼ばれた小島一郎の存在を知りました。青森市出身で、生まれ故郷を被写体として、そこに生きる人々の生活を撮り続けた写真家です。私は早速インターネットで検索し、パソコンの画面越しに見た彼の作品に釘付けになりました。雪原の一本道をうつむいて黙々と歩く人々、寒風吹きすさぶ浜辺で、必死に船を引き揚げた漁師。どの写真からも北国に生きる人々の逞しさがヒシヒシと伝わってきました。青森の厳しい風土は、私たちを鍛錬し、環境の変化に順応しながらも生き抜いていく力をはぐくんでいることに気づかされた瞬間でした。

平成21年度も子どもたちが持つ逞しさを十分に生かし、夢に向かって主体的に取り組む力を引き出すための研修講座を多数準備して、皆様の来所をお待ちしております。

(広報委員 須藤貴則)



センター研究発表会
(部会別研究発表会-教育相談-)



センター研究発表会
(部会別研究発表会-情報教育-)

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」